

Eco Life Guide

社会に優しいお金の流れ編



お金と社会問題の関わりについて

皆さんは、日々生活している中で、自分のお金が社会問題とつながっている、と感じたことはありますか？

多くの方は、感じたことはないと思います。自分が手に取るものと、手に取ったものが実際に作られた場所が大きく隔てられている現代社会では、やむを得ないかもしれません。

ですが、私たちの社会は、お金を媒介とした「経済活動」によって循環しています。道路を作る、車を作る、沢山の食料を生産するなど…この経済活動によって、私たちの生活は便利になったり、豊かになったりしてきました。

しかし一方では、今世界で起こっている様々な問題…気候変動を始めとした環境問題、兵器、食の安全…こういった社会問題も、

私たちの経済活動(=お金の流れ)に起因して生じています。

では、どのように私たちのお金が、社会とつながっているのでしょうか？

まずは「金融」という言葉の意味を考え、そのあとに身近な銀行を例に考えてみましょう。

経済活動を活発にした「金融」ってなんだろう？

金融とは、「お金を融通すること」です。どういうことかという、お金を持っている人が、お金が不足している人に一時的にお金を渡し、返してもらうというのが基本です。飲み会の時にうっかりお金を下ろすのを忘れ、友達に一時立て替えてもらうのも、「金融」なのです。意外と身近ですね。

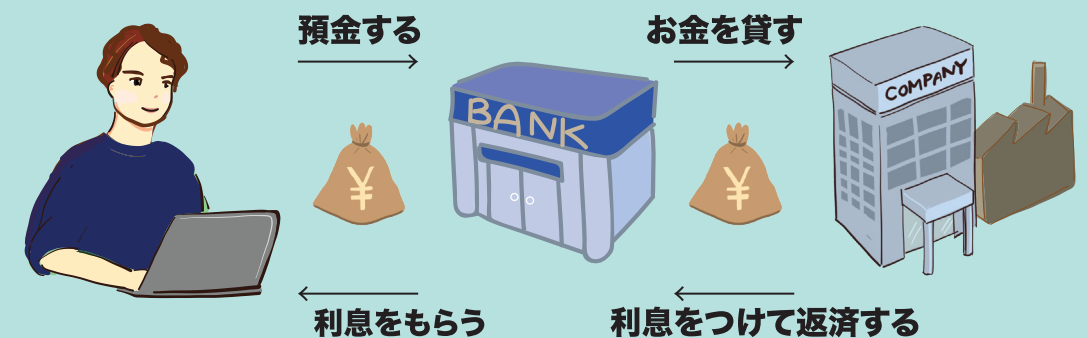
この金融という仕組みによって、お金を借りたい人や企業がお金を集め、事業を行っていくことで、世界は経済活動をどんどん活発にしていきました。

さきほどの飲み代のようなお金の貸し借りは毎日発生しないと思いますが、実は私たちの多くが気づかぬうちに金融の仕組みに参加し、経済活動を作っているのです。

銀行にお金を預けるとどうなる？

みなさんのうち、ほとんどの方が、アルバイト代やお給料などは銀行に預けていると思います。さて、これらのお金はどうなっているのでしょうか？金庫に山積みになっている、わけではありません。私たちが銀行にお金を預けると、銀行はそのお金を企業や国、自治体やプロジェクトなどに貸し出されています。

これは、私たちのお金が、銀行を通して、間接的に企業や国、プロジェクトなどにお金を貸していることになります。預金につく利子は、お金を借りた企業などが支払った利子の一部なのです。



銀行にお金を預ける時に、その預金が経済活動への参加につながることを、意識する人はあまり多くないでしょう。ですが、このように私たちが預けたお金は、企業や国、などの貴重な資金源として、活用されています。

では、その預金がどのように社会問題とつながっているのでしょうか？
次のページで、その関係を見ていきましょう。



当冊子は、情報の提供を目的として作成したものであり、投資勧誘や特定銘柄への投資を推奨するものではありません。お取引を行う際は、取引の仕組みやリスクについて十分ご理解の上、ご自身の自己責任において行ってください。当冊子において提供する情報は2018年3月時点のものをもとにしており、正確性に関しては万全を期しておりますが、その正確性、完全性、信頼性、適時性、有用性等いかなる保証もするものではありません。

お問い合わせ
(特非)国際青年環境NGO A SEED JAPAN
〒110-0005 東京都台東区上野5-3-4
クリエイティブOne秋葉原ビル7F
TEL:03-5826-8737 FAX:03-3834-1025
E-mail:info@aseed.org
URL:http://www.aseed.org/

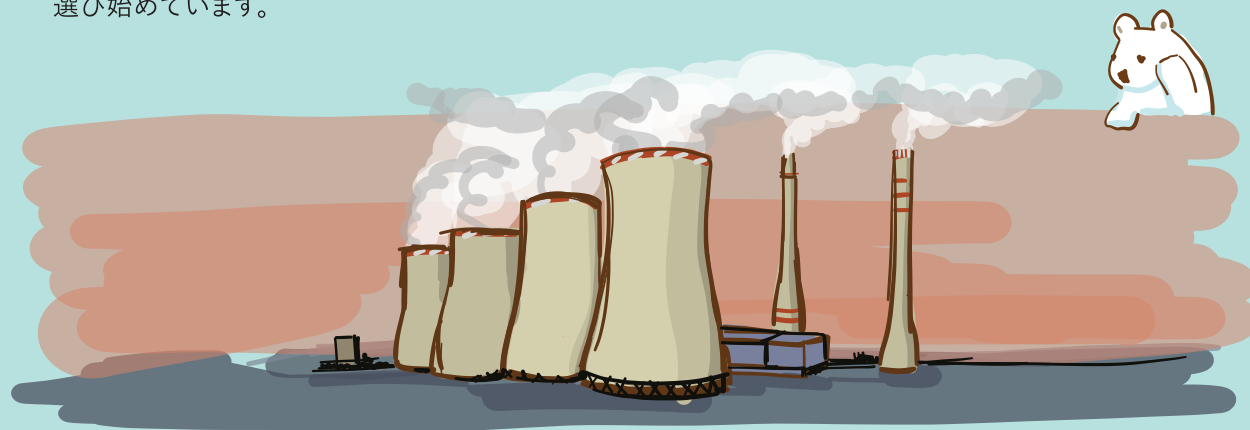


制作 国際青年環境NGO ASEEDJAPAN
西島 香織 田川 道子 大村 哲史
※本冊子は独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金
およびSwedish International Development Cooperation Agency
(スウェーデン国際開発協力庁)の助成を受けて作成しました。



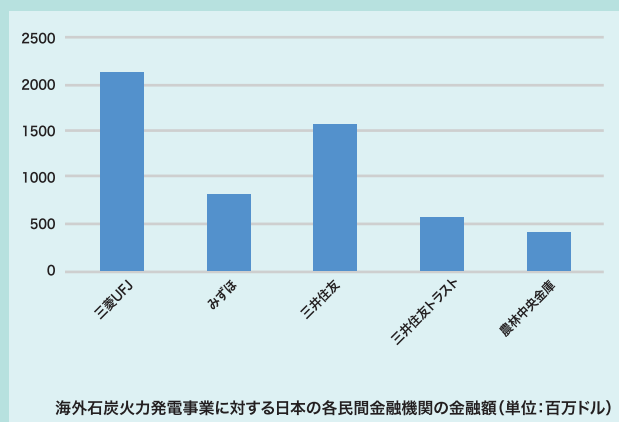
例えば、気候変動問題

近年、世界各地で発生している異常気象。日本でも、猛暑日やゲリラ豪雨、激しい降雪など、日々の生活で今までなかったような気候の変化を感じているかと思います。気候変動問題の要因には、自然現象によるものと人為的なものがありますが、人為的なものの中で注目されているのが、石炭や石油などの化石燃料の消費による大気中の二酸化炭素濃度の増加によるものです。この気候変動は、一刻を争う国際的な問題です。日本にいとそこまで実感はないかもしれませんが、他人ごとではありません。深刻な干ばつや豪雨、海面上昇等などによって、農作物が収穫できなくなったり、住む土地を追われ、難民になってしまう人々も出てきています。この問題を世界で解決すべく、2015年12月にフランスのパリで開催されたCOP21（気候変動枠組条約第21回締約国会議）にて、2020年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みとして、パリ協定が採択されました。この合意により、京都議定書の成立以降長らく日本が主張してきた「全ての国による取組み」が実現しました。そして、多くの国々は、温室効果ガス削減に向け、化石燃料からより温室効果ガスの排出が少ない方法を選び始めています。



しかし、Fair Finance Guide 第6回ケース調査報告（「未来を奪う石炭融資」～日本の民間金融機関による海外石炭火力発電プロジェクトへの投融資実態～）では、大手民間銀行から55億ドル（約6200億円）もの融資が行われていることが分かりました。（2017年11月現在）

パリ協定で多くの国々が、世界の平均気温を抑えるために、石炭火力発電の抑制に努めている中、**私たちが預けたお金の一部が、世界の流れとは逆行する方向に使われています。**



そのほかにも、こんなお金の流れが...



※Fair Finance Japan Guideのテーマ別実態ケース調査より

このように、私たちが想定もしないところで、一部とはいえ私たちの預金に関係しているのです。これを知ってどう思われたでしょうか？仕方がないと片づけてしまうことは簡単ですが、私たち一人ひとりが少しずつ行動を変えるだけで、大きな流れになっていくのです。人や環境・地域に優しいお金の流れについて考え、ぜひ一歩ずつ行動してみませんか。

持続可能な豊かな社会を築くための重要な鍵の一つは、私たちが一生を通して付き合っていく「お金」です。「お金」には、私たちにとってより良い社会を作っていく力を持っている。「お金の流れ」を意識していく方法を、次ページから考えていきましょう！

